

三池労組の

文化祭を見て

全電通若松 相川 正

ホールへ二歩はいるとおどろきの「自分自身をそれぞれ支えてきた吾々が、もう一度歩いてきた過去をみるべきだ」と私たちが聞いたとき、私は働くものの信頼を忘れてはならないと思ひ、穴集の中の一つです。

三井資本の利潤追求の会社に対する怒りをぶちまけていたさまを、会場の人たちが涙して聞き、過去のものとてなくいまの目標としてある、そこには現在の昭和元禄的平和ムードは全くなく追いつくものとしての迫力がひびきと場内に伝わってきた。

指導部をのりまわすのコントやフラダンスに興じる姿は、直感的にうらやましく思ひ、ほほえましく、労働者の解放性があった。そこには闘争を通じての人間と人間の会話があり、働く者の連帯感が流れていた、その中には指導部と組合員という意識はなく、ミソや断絶感のかけらも見えなかった。

秋田音頭のリハサルを何度となくの返し踊る、主婦会のオバさんの元気と土性骨は、生活のきびしさ苦しさの中から生まれた生活に対する気迫と、自分をもあまやかない態度を感じた。

文化祭のあと勝立社宅に行くと、案内してくれた三池労組の青年(山本さん)と二人の奥さんとの間の対話がごく自然で、飾り気のない触れ合いが、三池全体家族として一体となっている感じがし、闘争の深さとその歴史をみる思いがした。

月見ヶ丘社宅に、高橋先生を訪ねた。高橋さんは「労働運動というよりも心あたった血の通った人間

うか? 「しかしながら文化祭全体を通じて、いまの三池の人たちがこれから何をしようとしているのかがあまり強烈には感じませんでした」

かえうた
ズンドコぶし

この「かえうた」は、文化祭で組合本部役員・書記局・三池主婦会本部役員の方々が上演した。三池ブラスがうたったもので、

歌集

奇蹟のいのち

子らと守らんから

吉川さん著

このほど兵庫県評にお勤めの吉川さんが送られてきました。便りに川崎さんという方から、自作の歌集「奇蹟のいのち」を守り紹介致します。

うめき

長雨がつづく五月のある朝、鉄槌をくうたような衝撃が頭を打った。爆風と土砂が空の中を這うまわると、さきさきの声を聞いたのと同じく、昨夜、友を議論で飲んだ焼酎のせいか、合理化の低賃金の二、三月の不満が突然こみあげたのだ。石炭を運んだ三池炭鉱でなだ。いったい足鉄労働者ってなんだ。まだ朦朧とした俺の心の中は、とくと正常に活動しはじめ、小屋の屋根をうつつ音はつづく。

注目集めた詩画展

文化祭にはまた、美術サークルの仲間(境政さん一宮浦、武松輝男さん一本所、姉川良雄さん一港務)の3人に、書道の中村昌幸さん(本所)ほか文学サークルの高橋龍生さん(宮浦)らが加わって詩画展を開いた。注目を集めたが「来年はもつと参加者をふやして、盛大にやるべきだ」との決意が固まった。上は作品の一つ。

今は鉱長、重役で保安無視など当りまえソレ……………

三池労組三位大青協の卓球大会

大地評青協協会は十四日、第三三位を占めた。その成績次の通り、三回卓球大会を市体育館で開催し、団体戦(男子)で三チームが対戦、三池労組チームは熱戦の末

「三池から」から
おくれし現金封筒は思ひがけず聞いに明けける三池の主婦から
たどりと鉄石(イシ)に抱きられて二時間余耐えきつたのいのちうれしく
この傷によく生きていたと医師のいのち奇蹟のいのち守らん

「三池から」から
おくれし現金封筒は思ひがけず聞いに明けける三池の主婦から
たどりと鉄石(イシ)に抱きられて二時間余耐えきつたのいのちうれしく
この傷によく生きていたと医師のいのち奇蹟のいのち守らん

「三池から」から
おくれし現金封筒は思ひがけず聞いに明けける三池の主婦から
たどりと鉄石(イシ)に抱きられて二時間余耐えきつたのいのちうれしく
この傷によく生きていたと医師のいのち奇蹟のいのち守らん

「三池から」から
おくれし現金封筒は思ひがけず聞いに明けける三池の主婦から
たどりと鉄石(イシ)に抱きられて二時間余耐えきつたのいのちうれしく
この傷によく生きていたと医師のいのち奇蹟のいのち守らん

「三池から」から
おくれし現金封筒は思ひがけず聞いに明けける三池の主婦から
たどりと鉄石(イシ)に抱きられて二時間余耐えきつたのいのちうれしく
この傷によく生きていたと医師のいのち奇蹟のいのち守らん

紹介は以上にとどめますが、吉川さんのご主人は三養生野銅山(兵庫県)にお勤めになっているとき、昭和三十六年一月十六日、坑内で発生した落盤によって「第二胸椎と第一腰椎の間が完全骨折、左肋骨八本複雑骨折、腰椎突起軟骨脱落」という重傷を負われ、以来今日まで完全に不自由な体でもって生き抜いてこられた方です。その間の吉川さんの思いを、それを託されたものが以上の歌です。

吉川さんはいま兵庫県評オラゲです。心から健康を祈って置きます。なお、お住まいは「兵庫県加古川市平岡町東加古川住宅(二〇一)です。

「三池の爆発事故に現地調査に参加して」から
あまりにもむごき事故なりふつおつたさる怒りは悲しみをこえ
父のきこえて母病むという子らあわれさきさきのことおもひやられ

「三池の爆発事故に現地調査に参加して」から
あまりにもむごき事故なりふつおつたさる怒りは悲しみをこえ
父のきこえて母病むという子らあわれさきさきのことおもひやられ

「三池の爆発事故に現地調査に参加して」から
あまりにもむごき事故なりふつおつたさる怒りは悲しみをこえ
父のきこえて母病むという子らあわれさきさきのことおもひやられ

「三池の爆発事故に現地調査に参加して」から
あまりにもむごき事故なりふつおつたさる怒りは悲しみをこえ
父のきこえて母病むという子らあわれさきさきのことおもひやられ

「三池の爆発事故に現地調査に参加して」から
あまりにもむごき事故なりふつおつたさる怒りは悲しみをこえ
父のきこえて母病むという子らあわれさきさきのことおもひやられ

春闘へ、主婦の採点きびし

明治ゴム

「KNA」史上最高の高値値上げ——七〇年春闘はこういわれるが、台所を預かる主婦がここの春闘を採点すると——

「物価上昇に追いつかないから生活はよくなる」四八・六〇「物価上昇の穴うめがやっただ」四五・三〇。つまり九三・九〇の主婦は春闘に不満というきびしい結果が出た。この調査を行ったのは、神奈川県小田原市の化学同盟明治ゴム労働組合。春闘では平均九千四百七十四円という高値の賃上げを獲得したのだが、この主婦のきびしい採点に、「参った、参った」とお手上げの表情。なお、他の設問には「今春闘のたかひをどう感じるか」に、「まぐたにたかったと思う」四一・八〇、「例年と変わらない」二六・二〇、「もっとたかたかっばい」二六・七〇……という状態。